富山大学附属図書館報　ISSN 1346－3608

書香

2004. 10. 15

No. 44

目　　次

◎ 本の貸借をめぐって
（工学部教授　袋谷賢吉）…… 1

〔諸　報〕
○ 図書館長に風巻理事が就任
「国立大学は変わったか」…… 3
○ 中学生が図書館業務を体験…… 4
○ インターンシップ事業の実施…… 5
○「夢大学 in TOYAMA '04」で貴重
図書を一般公開…… 5

〔特　集〕
－ヘルン没後100年とヘルン文庫－
○ ヘルン文庫再訪…… 6
東方学院長　前田専學
○ 小泉八雲図書館について…… 8
小泉八雲研究者　染村絢子
○ 小泉八雲図書館を訪れた人々……10
○ 小泉　時氏，ヘルン文庫を再訪……11
○ 八雲会(松江市)がヘルン文庫を見学……11
○ ハーンの著書「日本の詩歌集」初版
を購入……11
○ 八雲図書館の模型を制作・展示……12

〔その他〕
○ 本学教官執筆図書案内……12
○ 図書館関係会議……14
○ 平成16年度附属図書館運営委員会
委員名簿（平成16年４月現在）……14

本の貸借をめぐって

工学部教授　袋谷賢吉（ふくろたに けんきち）

「風信雲書自天翔臨･･･」。東寺に伝わる空海自筆の書，『風信帖』の冒頭部分である。この名筆は，空海が最澄に宛てて書いた返信の手紙であり，両者の親交のほどをうかがい知ることのできるものとなっている。空海と最澄の間には数多くの手紙の往来があったはずだが，時の経過とともにその多くが失われ，今では30通足らずが知られるのみである。そのおよそ半数が書物（経典）の貸借をめぐってのものである。

804年に留学生として唐都・長安に至った空海は，恵果から密教の奥義を授けられるとともに，自分に代わって急ぎ東方に教義を流布するようにとの遺命を受ける。空海は20年の滞在予定を早々に切り上げ，多くの経典・法具を携えて帰国の途につく。留学資金が底をつくなか，途中の越州でも精力的に経典の書写・蒐集を行なっている。

806年帰国。定めにより，ただちに持ち帰った品々を目録に添えて朝廷に差し出す。それらの品々は国庫に入り検分を経たのち，３年後に空海の元に返される。目録をいちはやく書写していた最澄

は，さっそく空海に経典の借覧を申し出ている。次から次へと届く最澄からの新たな借用要請。一心に道を求めての最澄の願いに，そのつど空海は真摯に応じている。そして二人は意気投合し，「仏法は一つ」の理想のもと，真言・天台両宗の融合統一をも約束している。しかし，やがて二人は超えることのできない教義の違いを感じはじめ，そしてついに袂を分かつときがくる。そのきっかけになったのも，最澄からの『理趣釈経』の借覧要請を空海が拒絶したためと言われている。

聖人君子の交わりにはほど遠いが，本の貸し借りや文献・資料のやりとりは私にとっても日常のことであり，思い出も多い。特に，若い頃，出身の「電気工学」から現在の「神経情報学」に専門分野を変えた頃には多くの先生方から懇切なご教示をいただいた。電子メールはもちろん，パソコンもない時代である。いただいた手書きの手紙は今でも机の引出しの奥に大切にしまっている。

私の手もとにある専門書を借りたいと，学生から申し出を受けることもときどきある。先日も見知らぬ女子学生が部屋まで訪ねてきて書名を述べ，修士論文の作成に必要だから借りたいと言う。「ホー，難しいことを勉強しているんだね。•••」などと一しきり話をしてから，「大切に扱ってね。」と言って本を渡した。数週間後に戻ってきた本を開いて驚いた。油のしみがそこかしこにあり，後が透けて見える箇所もある。どうやら，ポテトチップスでもつまみながら，その指でページをめくっていたらしい。落胆するが，相手は学生だと思うと，さほど腹も立たないから不思議である。

手もとにある本を図書館に一時返却してほしいと司書から連絡を受けることもある。大学図書館間の相互貸借制度を利用して，他大学から借用依頼があったとのことである。依頼主は私と専門が同じ研究者に違いない。もしも依頼主が駆け出しの研究者なら，「その本よりもこちらの本を読んだほうがよい。」とか，「この本も一緒に読むと理解が深まる。」などとアドバイスしたい。もしも依頼主が潤沢な研究資金をお持ちの大先生なら，「実験装置にも相互貸借制度があれば，田舎の貧乏大学は助かります。」などと余計なことを言うかもしれない。しかし，司書に聞いても，依頼主の氏名や所属は教えてもらえない。教えないきまりになっているらしい。学問の自由のもと，主義，主張，地位や学閥に影響されてはいけないという，高邁な精神からのものらしい。すこし味気ない気もしないではないが，その精神は大切にしたい。

もう20年以上も前のことだが，米国に留学していたとき，図書館に必要な本がないので相談すると，図書館の女性はにっこり笑って「任せなさい。」と言い，相互貸借制度を利用して２日でその本を取り寄せてくれたことがあった。あまりの速さに驚いて尋ねると，３日以内に届けるきまりになっているとのことだった。その米国と，グローバルILLプログラムによる図書の相互貸借が2003年８月１日よりはじまった。おかげで本がますます売れなくなるという本屋のぼやきも聞こえてきそうだが，大目に見てもらいたいものである。2004年８月末日までの１年間，日本側から米国側へ貸し出したものが29冊。逆に日本側が米国側から借り受けたものが119冊。まだまだ全体的に少ないが，今後の発展を期待したい。貸借冊数の違いが，貿易不均衡是正論などと同列に扱われることのないことも祈りたい。

諸　報　法人化後の初代図書館長に風巻理事が就任

国立大学は変わったか

附属図書館長　風巻紀彦（かざまき のりひこ）

法人化後３ヶ月が経過した７月21日に開催された「法人化が国立大学の運営に何をもたらしつつあるか」というテーマの公開研究会（筑波大学大学研究センター主催）に出席し，いくつか興味深い話を聴けましたので，この機会に少し紹介させていただきます。この日の講師は，日本経済新聞編集委員の横山晋一郎氏，筑波大学教授で学長特別補佐の吉武博通氏，大学評価・学位授与機構長の木村 孟氏，京都大学副学長・理事の本間政雄氏の４名でした。

先ず，横山氏の講演の中で紹介された河合塾によるアンケート調査の結果です。アンケートの目的は，法人化により国立大学は如何に変わったか？の調査で，さすが大手の予備校だけあって，かっての在校生が，全国の国立大学に散らばっていますので，彼等を調査の対象としています。その調査結果によりますと，「学生課の対応が良くなった」，「大学側のコスト意識が高くなった」，「非常勤講師が減った」，「資格試験のバックアップ体制が強化された」，「プリンターが有料化された」，「表彰制度が導入された」，「大学歌を変えた」，「受験生向けのパンフレットが立派になった」，「成績評価が厳しくなった」，「学生による授業評価だけでなく教員間の授業評価が始まった」等々の回答があり，学生は大学の変化を敏感に感じ取っているようです。富山大学でも，就職課の新設や新サークル棟の建設などにより就職支援体制や課外活動の支援を強化し，さらに，表彰制度の導入やメンタルヘルス体制の改善について現在検討を急ぐなど，学生のキャンパスライフ充実に向けて努力しております。とくに，学生の学習環境向上の面では，附属図書館の役割は極めて重要であり，学生用参考図書等の一層の充実を図る必要性を感じております。

また，横山氏から，経営協議会や学長選考会議の在り方について重要な指摘がありました。日本経済新聞では，国立大学の経営協議会の学外委員を対象にアンケート調査を実施しています。それによりますと，学外委員が全くのお飾り的な存在になっていることに対するかなりの批判があるそうです。経営協議会を活用するのか，或いは，形骸化するのか，大学の将来を左右する程の大きな問題です。富山大学としても検討を要するように思います。さらに，学長選考会議における学外委員の存在意義についても同様の指摘があり，関連して，鹿屋体育大学の例が紹介されました。鹿屋体育大学の考え方は，自薦，他薦の学長候補者の中から，学長選考会議で３名に絞り，その上で，学内の投票に委ねる，というものです。この方式は，３名に絞るまでの段階で学外委員の意見が反映され，絞った３名の中から学内で選考することにより，学内の意向も尊重されるという点で優れているように思いました。ちなみに，本学の法人化準備委員会で検討した学長選考の手続きは，鹿屋体育大学方式と基本的には同じです。

講演の最後に横山氏は，大学の運営は制度的には確かに変わったが，真の意味で，国立大学が変わったという印象は無い，という感想を述べていました。しかしながら，国立大学の法人化が結局は行財政改革であり，しかも，このような大変革に対する準備期間が極めて短期間であったことを考慮すれば，現時点では，それも致し方ないと思います。

この点に関して，吉武氏は，「国立大学の場合は，改革が遅くても仕方ない。長くやってきたことを急には変えられない」という人がいるが，最

早そのような論理は通用しない，という厳しい意見を述べ，その上で，大学が最も重視すべきは教育・研究であり，産学連携を推進するのが大学改革であるかのように考えている人がいるが，それは間違いである，と主張していました。

なお，木村氏の講演に対し，「89もある国立大学法人を本当に評価できるのか？」という質問がありました。これに対して「不可能と思う」と答えていましたが，大学評価・学位授与機構長の立場にある方の発言ですから，参加者の多くが驚いていたようです。

以上が，公開研究会で特に印象に残った話です。このような話を図書館報「書香」に書くのは相応しくないのではないか，と若干迷いましたが，法人化後の国立大学の状況をお知らせすることも大事と判断致しました。図書館の業務に関わるのは初めてですが，附属図書館の事務職員の皆さんのご協力をいただきながら，何とか館長としての務めを果たしたい，と考えております。どうぞよろしくお願い致します。

中学生が図書館業務を体験

――「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」――

去る７月５日（月）～ ９日（金）の５日間，図書館本館において，富山県教育委員会が実施する「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」事業の趣旨に基づいて，中学２年生が職場体験を行いました。

今年で６回目になるこの事業には，今年度も富山市立西部中学校から協力依頼があり，４名の女子生徒が図書館業務を体験しました。

はじめに藤島事務部長から，図書館の中では非常に多くの仕事が行われており，短い期間ではあるが，この体験が将来を考えるにあたっての参考になれば幸いである旨の挨拶があり，引き続き，図書館の仕事の概要説明および館内見学を行いました。

開館前の作業を行う中学生

２日目以降は，オンラインによる国内外の図書館の蔵書を検索したり，図書館サービス業務のうち，図書の配架整理，現物貸借，文献の複写サービスなどを体験してもらいました。パソコンで他大学の図書館と図書資料に関する情報のやり取りを行っていることや，図書の配架，貸出図書の発送，文献の複写など初めての体験に，とまどいながらも一生懸命に取り組んでいました。

早いもので，５日から始まった「14歳の挑戦」も，今日で終わりを迎えました。

最初は，初めての仕事ばかりで戸惑い，楽しむ余裕などなかった私達でしたが，日が経つにつれ，少しずつ仕事を楽しんだり，次の作業に興味をもつ余裕がでてきました。図書館では一つ一つの仕事が重要で，責任を持って正確に行わなければならないことなど，多くのことを学びました。この５日間の経験を学校生活にもいかしていきたいです。

職員の皆さん，仕事の時間を割いて私達に色々なことを教えて下さり，ありがとうございました。

終了式における中学生の挨拶

富山大学インターンシップ事業の実施

平成15年度から，学生に就業体験をさせることにより，学習意欲の喚起，高い職業意識の育成を図ることを目的とした「富山県インターンシップ事業」が実施され，今年度図書館では，８月２日(月)～８月６日（金）の期間，人文学部から１名，経済学部から３名の計４名の学生を受入れ，本館において実施しました。

はじめに，木村情報サービス課長から図書館業務の概要について，山田情報管理課長から大学図書館の管理・運営について概要説明があり，学生は，図書館の役割について認識を新たにしたようでした。図書資料等の受入・整理業務では，付帯する作業や情報収集の必要性を理解するとともに，利用者サービスの実習においては，ネットワークを利用したデータベースの構築等に新鮮な驚きがあったようで，今回のインターンシップへの参加は，大変貴重な体験になったように感じられました。

「夢大学 in TOYAMA’04」で貴重図書を一般公開

去る９月11日（土）に大学開放事業の一環として，附属図書館本館において「加賀藩農政資料の展示」（２階近世文書室及び同室前ホール）及び「ヘルン文庫の蔵書にふれ小泉八雲に学ぶ」（５階ヘルン文庫室，同閲覧室及び同室前ホール）と題して，貴重図書の一般公開及びパネル展示を行いました（入場総数：308名)。

加賀藩農政資料展示コーナーでは，安政の大地震による水害等の様々な災害の記録，彗星(1843年等)の記録及び現在の高岡地区における区域割りの絵図等の資料を展示しました。

加賀藩農政資料展示コーナー（２階）

ヘルン文庫展示コーナー（５階）

「ヘルン文庫の蔵書にふれ小泉八雲に学ぶ」では，今年が小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の没後100年にあたるため，本学が所蔵するハーンの旧蔵書と写真や関係資料から，ハーンの著作や人柄に触れられるよう企画・展示を行いました。熊本，島根をはじめ全国のゆかりの地においては，様々な記念事業が行われており，それらのポスター等も展示しました。

手書き原稿「神国日本」をはじめとするハーンの著書は，外国では日本を知るための貴重な資料として以前から研究が行われており，来館者はハーンの業績に深い関心を寄せていました。

特　集　－ヘルン没後100年とヘルン文庫－

「ヘルン文庫」再訪

東方学院長・東京大学名誉教授　前田専學（まえだせんがく）

去る５月のある日電話が鳴った。受話器をとりあげると，「NHK エデュケーショナルの安藤都紫雄ですが，今年はどういう年かご存じですか」という唐突な質問である。質問の意図がよく理解できなくて黙っていると，「今年は小泉八雲の没後100年の記念の年でしょう。それで八雲の没後100年に因んで，こころの時代で，小泉八雲の仏教観について話をして欲しい」という依頼であった。

大分以前から，そのようなテーマであちこちで研究を発表したり講演をしたりしているので，喜んでお引き受けすることにした。その時点では，録画の場所はまだ決まっていなかった。やがて安藤氏から，富山大学の「ヘルン文庫」で録画を撮ることにしたという連絡があり，かつて「ヘルン文庫」を訪問したときのことを懐かしく思い起こした。

あれはいまから13年前の，雪の降りしきる寒い平成３年２月４～６日の３日間のことであった。家内と私は，それぞれの調査目的をもって，「ヘルン文庫」を訪れ，幸い図書館の一室で仕事をする便宜が与えられた。

松江のラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の旧居跡の小泉八雲記念館や，かつてハーンと縁があった熊本大学，東京大学，早稲田大学の図書館ならばいざしらず，なぜこのような，ハーンが一歩も足を印したこともない，しかもあまり便利とはいえないところに位置する富山大学の図書館に「ヘルン文庫」があるのか，と不思議に思いながらの旅であった。幸い図書館で見ることが出来た文献[1]によって，この謎は氷解した。南日恒太郎旧制富山高校初代校長とその弟田部隆次教授と馬場はる夫人との功績であることがわかったのである。

ハーンといえば，かつての筆者のように，おそらく「耳なし芳一」や「雪女」などの怪談の作者であるとのみ理解されている方が多いと思う。

ヘルン文庫を訪れられた前田専學氏

しかしハーンを調べるにつれて，その見方は間違いではないが，ハーンはそれだけで尽きる作家ではなく，再話文学者，日本研究家，民俗学者，料理研究家，教師・文芸評論家などなど，実に多面的な活躍をした著述家であることが分かってきたのである。筆者が注目しているのは，従来ハーン研究者が見過ごしがちであった，インド・仏教・ヒンドゥー教に強い関心を抱いているハーンである。

ハーンの作品の翻訳家として著名な平井呈一氏（1902-1976）によると，ハーンが仏教や東洋関係の書物を「ほとんど淫するほどに……嗜読」[2]したのは，ハーンのニューオーリンズ時代であったということである。すなわち1877年（明治10年）11月（27歳）から1887年６月までの10年間であったという。この事実は，「ヘルン文庫」の中に反映している。

ヘルン文庫は，生前ハーンが東京の西大久保の自宅に備えていた蔵書――アメリカ時代に買って日本にもってきた書物と来日してから日本で買っ

た書物からなる――，合計2,435冊と，ハーンが生きている間にその出版を見届けることが出来なかった『日本――一つの試論』の自筆の原稿（1200枚）から成っている。筆者のリスト[3]によれば，その全蔵書のうち，仏教関係の書物は，59冊，ヒンドゥー教関係の書物は――ヒンドゥー文学関係の書物は除く――，16冊，両者の合計は75冊にのぼっている。

ヘルン文庫所蔵の文献中ヒンドゥー教のバイブルともいわれる『バガヴァッド・ギーター』の仏訳 Burnouf, Emile. *La Bhagavad-gītā ou le chant du bienheureux, poème indien*（Paris: Duprat, 1861, 書架番号〔1636〕）を調べていたとき，偶然，白紙になっている裏の見返しの部分に，大変に興味深い鉛筆の書き込みを発見したときは，何かハーンの秘密に触れたような感激を味わった経験が未だに忘れられない[4]。このようなメモは，『バガヴァッド・ギーター』だけではなく，家内が調べていたヘルン文庫所蔵のインドの有名な叙事詩『マハーバーラタ』の英訳（書架番号〔1014〕-〔1017〕）と仏訳（書架番号〔1638〕）にも残されていた。ヘルン文庫のハーンの蔵書の書き込みをいつの日にか丹念に調べてみたいと思いながら，馬齢を重ねるばかりで，果たせないままであるのを遺憾に思っている。

時はいつしか流れ，平成16年6月22日午後4時ころ，前回の訪問の時とはうって変わって，真夏のように暑い富山の駅に降り，車で妻とともに再び富山大学図書館を訪れた。そこで一足早く着いて，ヘルン文庫での録画の準備をほぼ完了された安藤氏をはじめとするNHKの方々と合流した。

13年ぶりのヘルン文庫をみて驚きの連続であった。まず，以前にはヘルン文庫は図書館の2階にあったのに，今は5階にあるし，文庫の中もすっかり変わっている。もちろん図書館の方々もすっかり変わっている。当時の薄い『ヘルン文庫目録』（1927）は，改訂・増補されて，堂々たる分厚い改訂版（1999）に代わっている。また当時の『ヘルン関係文献解説付目録』も，すっかり改訂（1998）増補され，さらに第2次補遺版（1999）までも付加されている。

翌6月23日（水）午前10時ころから，ヘルン文庫に隣接した部屋で，「西洋と東洋の出会い――小泉八雲の仏教観――」と題する録画撮りが開始された。このときの対談者は，まったく偶然にもかつて東大教養学部時代の同級生白鳥元雄聖徳大学教授であった。

このときの録画は，平成16年7月11日（日）午前5時～6時NHK教育TVで放送され，7月18日（日）午後3時～4時に再放送された。この放送をみながら，富山大学附属図書館の方々が，じつに親切で，しかも録画撮りに協力的で，そのお陰で気持ちよく仕事が出来たことを思い起こし，この場を借りて，藤島隆事務部長，山田幸彦情報管理課長，柴田淳情報管理課総務係長をはじめ，ご協力頂いた皆様方に，心からの謝意を表する次第である。また，この録画を企画・作成してくださった安藤氏，ならびに貴重な時間を割いて出演してくださった白鳥教授に対しても深い感謝を申し述べたい。

〔注記〕

1　*Catalogue of the Lafcadio Hearn Library in the Toyama High School, 1927*；長井真琴「ヘルン文庫を観る」〔『宗教研究』新7巻3号〕1930，pp. 153-157；平田純「ヘルン文庫」（上）下）.

2　平井呈一『小泉八雲入門』古川書房，1976，p.31.

3　「ラフカディオ・ハーンと仏教」〔『雲藤義道喜寿記念論文集・宗教的真理と現代』教育新潮社，1993)〕，pp.11-26並びに「ラフカディオ・ハーンとヒンドゥー教」〔『東方学会創立記念五十周年記念・東方学論集』東京・東方学会〕，pp. 1265-76.

4　この書き込みについては，前引の「ラフカディオ・ハーンとヒンドゥー教」の注記10に詳しく記しておいたので参照されたい。

「小泉八雲図書館」について

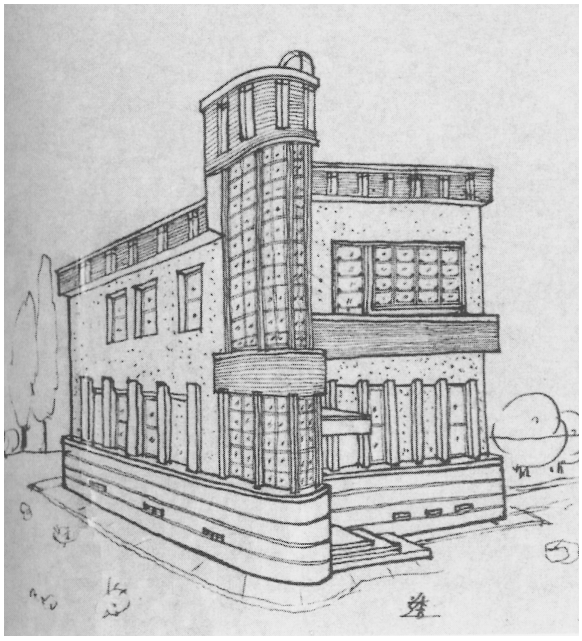
小泉八雲研究者　染村絢子（そめむらあやこ）

今年はLafcadio Hearn（小泉八雲 1850－1904）没後100年である。6月12日、ハーンの令孫小泉時氏と尚子夫人が「ヘルン文庫」を訪れた。3回目の訪問であるが、平成9年に改装されてからは初めてで、蔵書が大切に保存されていることを喜ばれた。

富山高等学校は大正12年、富山、東岩瀬の海運業、馬場家の寄附によって創設された。大正13年、馬場はる子氏は、開校を祝してハーンの旧蔵書2435冊（1352冊が英語図書、719冊がフランス語図書、364冊が和漢書）を高校に寄贈した。

高校の校舎は当時未着工であったので、富山に運ばれたハーンの蔵書は、一旦、富山県庁内に置かれ、大正14年4月、新しい3階建ての図書館の2階に移された。文庫の名称は、「ヘルン文庫」と決定された。ハーンがヘルンと呼ばれるようになったのは、ハーンが1890年4月来日し、同年8月島根県松江の島根尋常中学校の英語教師として赴任した際、県知事との条約書に「ラフカヂオヘルン」と書かれていたからである。加えて「ヘルン」はハーン家の紋章ヘロン（鷺）に通じる響きがあり、さらに松江の人々に「ヘルンさん」と親しく呼ばれたことから、以後「ヘルン」を好んだハーンは「へるん」「邊るん」「邊留武」などの印鑑を作り自らの蔵書に捺すことを好んだ。「ヘルン文庫」の蔵書中、約3分の2の洋書に「へるん」が捺されており、南日恒太郎校長はこれらの事から「ヘルン文庫」と命名したのである。

「ヘルン文庫」を訪れる人は年々増えて手狭になったので、高校は、創立10周年記念に馬場家の寄附により独立した「小泉八雲図書館」を建てることとした。『富山高校十周年史』（昭和8.10.16）は、高校は八雲図書館建設第一回委員会を、昭和8年9月14日開催。2階建て、鉄筋コンクリート、耐震耐火で、目下設計等の計画が着々と進んでいる、と記している。「ヘルン文庫」には日付と設計者名のない建物の透視図［写真1］が残されている。県の関係者が設計したものであろう。しかしこの設計図による図書館は実施されなかった。



［写真1］実施されなかった図書館.「ヘルン文庫」蔵

昭和8年10月26日、富山高校は山口蚊象氏を高校に招聘し「小泉八雲図書館」設計を依頼した。氏は、昭和7年7月ドイツ留学から帰国したばかりの新進気鋭の建築家で、昭和8年11月竣工した松江の「小泉八雲記念館」を設計した。高校の依頼により山口氏を紹介したのは、南日恒太郎校長の親戚である北星堂書店堂主、中土義敬氏であった。中土氏は松江の記念館建設に関して、山口氏や八雲会に協力を惜しまなかった。

山口氏は「仕様書」と「設計図」を高校に送った。現在「ヘルン文庫」には、この山口氏の設計図23枚がある。棟持ち柱のある高床、切妻の優雅な日本風建築の設計で、山口氏も会心の作と考えていたのであろう、昭和9年6月、東京銀座資生堂ギャラリーで「山口蚊象建築作品個展」を開催して、この「小泉八雲図書館」の模型を出展した。しかし多分経済的理由からこの設計による建築も実現しなかった。（会場を訪れた招待客の中には、当時、日本に亡命していた友人ブルーノ　タウトもいた。）［写真2］はRIA建築総合研究所（戦後山口氏が友人と作った会社）作製の模型の写真である。

［写真２］実施されなかった図書館模型の写真.

［写真3］実施された「小泉八雲図書館」. 染村絢子蔵

「小泉八雲図書館」が竣工したのは、昭和10年５月10日。「北陸日日新聞」は［風変わりな白亜の建築　八雲図書館］の見出しで、「全体として日本の茶室の持ち味を生かしていることが特色で、特に床下が神社風に柱で支へられ向こう側を透かして見ることが出来るようになっているのが目立っている」と報じている。初めの設計図と比べると外観は棟持ち柱がなく、窓のデザインも簡略化されていて、趣は異なるが、内部は山口氏の初めの設計が尊重されているように思える。建物の中央に蔵書を収蔵する部屋がつくられ、その中央にハーン自筆の『神国日本』の原稿1,200枚を収める金庫も据えられた。天井には、松江の記念館同様、天窓が作られた。部屋のまわりは回廊式で、学生達の勉強、閲覧のための椅子と備え付けの机が、山口氏によってデザインされた。

この実際に建った図書館の設計図は見当たらない。写真も数葉残されているのみである。［写真３］は図書館建築後約１年経った1936（昭和11）年７月26日 P.D.Perkins によって撮影されたものである。パーキンズは *Lafcadio Hearn A Bibliography of His Writings*（1934. 4. 30）を夫人と共に著した。「ヘルン文庫」にサイン入りの寄贈本がある［H090.11］。氏は市河三喜博士の紹介で三高の講師となり、富山高校を２度訪れている。この写真は最初の時のもので、向って左から、高校の高田力教授、西崎一郎教授、パーキンズ夫人、同令嬢と氏名不詳の男性の５名である。高田、西崎両教授はハーンに関する多くの研究を発表している。

翌年５月31日パーキンズは、富山高校で２時間にわたり “Little Known Aspects of Hearn’s American Life”（「ヘルンの知られざるアメリカ時代」）の講演をした。私蔵のパーキンズの書簡類綴りには、高田教授に５月27日に送ったタイプ10枚のこの原稿コピーがある。また「ヘルン文庫」のクリーム色のパンフレット “The Hearn Library at Toyama Kotogakko” のタイプ原稿３枚も一緒に綴られている。昭和12年６月７日付「帝国大学新聞」は、このパンフレットについて、富山発の記事として次ぎのように転載している。「….なおパーキンス氏は本校ヘルン文庫の基金募集としてパンフレットを発刊、広く世界のヘルン愛好者に呼びかけ１名１ドル以上の寄附を仰ぐこととなった。従来ヘルン文庫を有してゐながら活発な動きを見せなかった八雲会も感激、寄附及び文庫目録配布等によって基金獲得とともにヘルン関係の図書蒐集に大童の態であり、東大図書館と共にヘルン研究の一大中心地となる日も近いことであらう….」この呼びかけに応じて寄贈されたと思われる本が「ヘルン文庫」にある。

昭和18年公立富山高校は官立に移行、24年国立富山大学発足、25年富山高校廃止。37年10月「小泉八雲図書館」は他の校舎と共に解体。この時南日校長胸像前での式典で、馬場はる子氏のさびしそうな姿が撮影されている。平成８年馬場公園に「ヘルン文庫跡」の碑が建てられ、山口蚊象氏設計の「小泉八雲図書館」復元の話もあったが、まだ実現されていない。蔵書は８回の移動に耐えて富山大学の「ヘルン文庫」で大切に収蔵されている。

小泉八雲図書館を訪れた人々

この度，ヘルン研究者の染村絢子氏に本学の前身，旧制富山高等学校時代の小泉八雲図書館について紹介をしていただいた。

八雲図書館には八雲を慕う人々をはじめたくさんの研究者が訪れ，初代南日校長が意図した「この文庫をもってよき教官を招聘する一つのたよりとし，またこれを縁故にして富山を日本における文化の一中心地にしたい」という願いが叶えられつつある。

本学附属図書館のヘルン文庫には，ここを訪れた人々の芳名帳が残されていて30数冊にもなっている。その中からよく知られている人の名をあげてみると以下のようである。

昭和８年10月に挙行された旧制富山高等学校の創立十周年記念式典には文部大臣の鳩山一郎が出席している。その際，祝賀行事として開催された学術講演会には松岡洋右が来校して講演を行った。

昭和10年になって，徳富蘇峰が蜷川校長の案内でヘルン文庫を訪れている。東京日日新聞に訪問記が掲載されているが，それによれば，「其の書籍は何れも有り触れたる，云はゞ月並的のものにして，別に奇書とか，珍書とか云ふ可き類は，殆ど之を見出すことが出来ない」とあるが，続けて「予は此れによりてヘルン翁が，実に天才たるを見上げた。翁は凡人並の書物を読んで，非凡なる文士となった」と語っている。

戦後になって，まだ東大の総長に就任する前の矢内原忠雄がヘルン文庫を訪れている。「にわかにあの鋭い眼を一きわ光らせながら，ぐっと手をのばして取り上げ，しげしげと見つめられたのが，新渡戸稲造の “Bushido” であった」と，そのとき案内した佐伯彰一氏は語っている。この本には著者新渡戸稲造からヘルンへの献辞が記されていた。

ヘルン文庫を見学する 徳富蘇峰

鳩山一郎，松岡洋右	昭和８年
河合栄治郎，徳富蘇峰	昭和10年
小泉信三，山田孝雄	〃
成瀬無極，市川三喜	昭和11年
Perkins, P.D.，三木 清	〃
諸橋轍次，福原麟太郎	昭和12年
宇垣一成，武藤貞一	昭和14年
岩崎民平，原 随園	昭和15年
石原莞爾，仁科芳雄	昭和16年
田部重治	昭和17年
大平正芳，小玉幸多	昭和18年
杉 靖三郎，大塚高信	昭和19年
安倍能成	昭和21年
柳田謙十郎，矢内原忠雄	昭和22年
緒方富雄	〃
天野貞祐，上原専禄	昭和23年
中谷宇吉郎，佐藤尚武	昭和25年
尾高朝雄，武者小路実篤	昭和27年
森戸辰男，小宮豊隆	〃

（F）

小泉　時氏、ヘルン文庫を再訪

八雲の孫，小泉　時・尚子夫妻（神奈川県在住）が６月12日にヘルン文庫を再訪。富山八雲会の招きで来富されていたご夫妻は，平成９年に新装となって以降，はじめての文庫見学に来館され，八雲の旧蔵書のほか，ヘルン文庫閲覧室に展示されている愛用の本箱をご覧になり，感激された。

思い出の品を見つめる小泉 時夫妻

『日本の詩歌集』初版を購入

（ニューヨークマンドリル•プレス社　1958年）
ハーン英訳　マーチン・レヴィット画

本書は，芸術家（マーチン・レヴィット氏）の署名入り限定版として150部印刷された初版の第42に当たり，７世紀から19世紀の時代の詩歌が収載されている。ラフカディオ・ハーンが翻訳した民話「おしどり」は，最終章に収載されている。ほとんどのページには，赤や黒のインクで彩色された図が挿入されている。

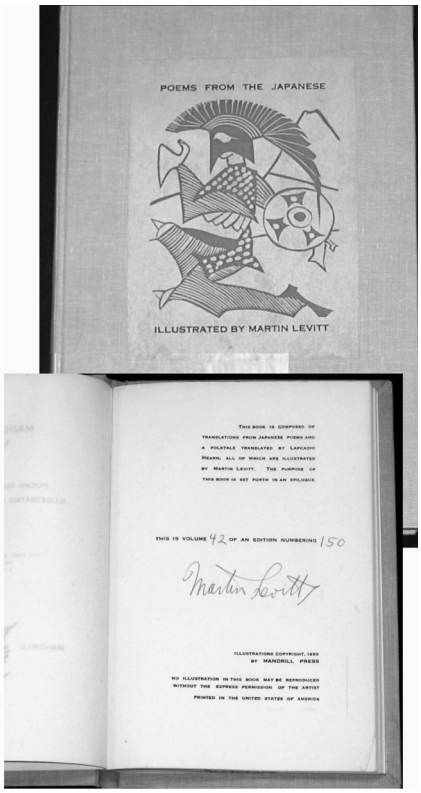
また，OCLC（世界最大規模の書誌データベース）によれば，本書を所蔵している機関はコネチカット大学，ノートル・ダム大学，ニュー・メキシコ州立大学の３大学しか登録されていない。

八雲会（松江市）がヘルン文庫を見学

去る７月24日（土）に，ヘルン没後100年記念事業の一環として，八雲会（島根県松江市）の一行がヘルン文庫を訪問した。

富山国際大学の高成教授の講演に引き続き，ヘルン文庫を見学した一行は，蔵書や直筆のメモを興味深く鑑賞していた。

ヘルン文庫を見学する八雲会（松江市）一行



『日本の詩歌集』初版

八雲図書館の模型を制作・展示

小泉八雲図書館の模型

小泉八雲図書館は，旧制富山高等学校の創立10周年を記念して建設された，白亜の瀟洒な建物でした。

戦後，富山大学が発足し，それに伴い蓮町のキャンパスも手狭となったため，現在の五福地区へ移転し，昭和37年にこの建物も旧校舎とともに取り壊されてしまいました。

なお，小泉八雲図書館の設立過程については，ヘルン研究者の染村絢子氏に紹介していただきましたので，是非ご一読ください。

この程附属図書館では，この記念的建物である小泉八雲図書館の建築模型を制作し，５階のヘルン閲覧室に展示し，９月11日に開催された夢大学で一般へも公開いたしました。

そ の 他

本学教官執筆図書案内

附属図書館では，本学教官が執筆した図書を積極的に収集しています。それらの図書は本館１階の専用コーナーに配架され，学生の皆さん等によって，有効に利用されています。新たに本を出版される際には，是非，図書館に２部ご恵贈くださるようお願いします。

ご寄贈いただいた図書は，『書香』及び附属図書館ホームページで紹介します。今回は平成16年２月以降の受入分です。

■歴史

遥かなる記憶 : 考古学が語る富山
富山県民生涯学習カレッジ　2004年（214.2/T66/Ha）
執筆者：高橋浩二（人文学部）ほか

太刀の高嶺を仰ぎつつ / 植木忠夫（名誉教授・旧文理学部）著
植木忠夫教授停年退官記念事業会　1966年（289.1/Ue4/Ta）

ジュニア版日本海読本 : 日本海から人類の未来へ / 伊東俊太郎総監修
角川学芸出版　2004年（292/It6/Ni=Ju）
図版作成：藤浩明（理学部）ほか

日本海/東アジアの地中海 / 中井精一（人文学部），内山純蔵（前人文学部），高橋浩二（人文学部）編
桂書房　2004年（299.23/N15/Ni）
執筆者：小林功（人文学部）ほか

■社会科学

コスタリカを知るための55章 / 国本伊代編著
明石書店　2004年（302.576/K96/Co）
執筆者：竹村卓（人文学部）ほか

黒人研究の世界 / 黒人研究の会編
青磁書房　2004年（316.8/K83/Ko）
執筆者：赤尾千波（人文学部）ほか

シカゴ学派の社会学 / 中野正大，宝月誠編
世界思想社　2003年（361.253/N15/Ci）
執筆者：高山龍太郎（経済学部）ほか

■言語

日本語語用論のしくみ / 加藤重広（人文学部）著
研究社　2004年（810.8/M18/Sh=6）

日本海沿岸の地域特性とことば：富山県方言の過去・現在・未来 / 中井精一（人文学部），内山純蔵（前人文学部），高橋浩二（人文学部）編
桂書房　2004年（818.42/N15/Ni）

■文学

緑弥生全訳注 / 田村俊介（人文学部），徳田哲詩（人文・大学院生）著
近代文芸社　2004年（913.49/T15/Mi）

図書館関係会議

（平成16年４月～８月）

◎ 学内関係

・第１回附属図書館運営委員会
　期日　平成16年５月20日
　場所　附属図書館会議室

・第２回附属図書館運営委員会
　期日　平成16年７月30日
　場所　附属図書館会議室

◎ 学外関係

・第55回北信越地区国立大学図書館協会総会
　期日　平成16年４月22日～23日
　場所　KKR ホテル金沢

・第51回国立大学図書館協会総会
　期日　平成16年７月１日
　場所　大阪大学コンベンションセンター

平成16年度附属図書館運営委員会委員名簿

（平成16年４月１日現在）

館長	風巻紀彦	工学部	袋谷賢吉
人文学部	湯川純幸	工学部	竹越栄俊
人文学部	田村俊介	教養教育院	古田高士
教育学部	呉羽長	総合情報基盤センター	村井忠邦
教育学部	徳樗曜	事務部長	藤島隆
経済学部	萩野聡	情報管理課長	山田幸彦
経済学部	高山龍太郎	情報サービス課長	木村優
理学部	久保文夫		
理学部	渡邊了		

富山大学附属図書館報「書香」№.44
2004年10月15日発行

編　集　富山大学書香編集委員会

発　行　富山大学附属図書館
　富山市五福3190
　電話 076-445-6891（ダイヤルイン）

ホームページ　http://www3.toyama-u.ac.jp/lib/